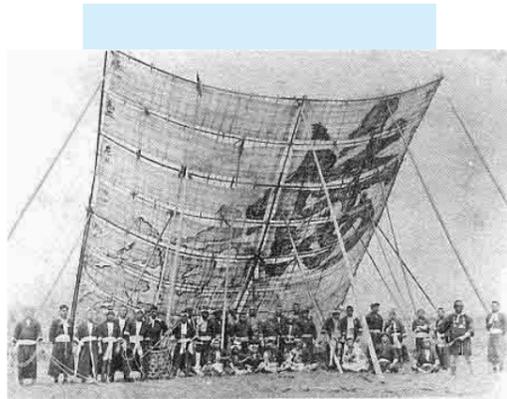


詳しく知りたい！「座間の大凧」

問い合わせ先

商工観光課 ☎046(252)7604 046(255)3550



大正4年の大凧

どうして大凧を揚げるの？
 200年以上続く座間の大凧揚げは、江戸時代に子どもたちの健康と成長を願って、各家庭で「祝い凧」が揚げられたことが始まりと言われています。「祝い凧」は大きく、高く揚がった方が縁起が良いと言われるようになり、大きさと高さを競い合うようになりました。
 時代が進み、電柱が増えるなどしてくると、大凧揚げをする場所が限られてきました。
 そのため、一カ所で大凧揚げをするようになり、現在の「大凧まつり」を相模川グラウンドで開催するようになりました。



紙貼り・縄入れ
 新聞紙ほどの大きな和紙250枚を貼り合わせます。縦1・7メートル、横6・76メートルに貼り合わせた和紙16枚に大凧へ結びつけるための縄を取り付けます。



骨組み
 軽くてしなりのある「メダケ」と強くて長さのある「マダケ」約150本を組み合わせて大凧をつくります。
 竹の堅さや全体のバランスを見ながら竹と竹を縄で組み合わせていきます。



糸目付け
 大凧を引くために47本の糸糸を結び付けます。糸糸の張り具合を決める「糸目付け」は、大凧が揚がるかどうかを決める重要な作業です。



文字書き
 貼り合わせた和紙を小学校の体育館に並べ、凧文字を書き込んでいきます。木炭や墨で文字の輪郭を書き込んだ後に、赤と緑の2色で凧文字を塗り分けられます。

どうして大凧を揚げるの？

どうやって作るの？

文字書き

座間の大凧

毎年5月4日・5日に相模川グラウンドで開催する「大凧まつり」で大凧を揚げています。大きさや重さがどのくらい知っているかな。

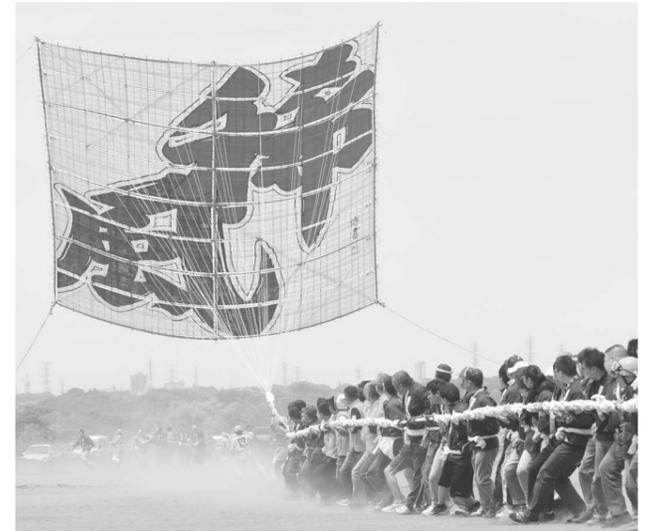
- 大きさ 13メートル四方（1辺の長さが友達10人と手を繋いだぐらい）
- 重さ 1トン（小型車1台ぐらい）

凧文字

大凧には、昔から漢字2文字が書き込まれています。右上は「太陽」を表す赤色、左下は「大地」を表す緑色で書き込みます。
 凧文字は、皆さんへ募集しています。来年はあなたの考えた凧文字が大空に揚がるかもしれません。

トピックス 中学生の凧揚げ

今年の大凧まつりでは、市内6校の中学生が1.8メートル四方の凧揚げに挑戦しました。



約100人が力を合わせて大凧を揚げます。

凧を作って揚げてみよう

- 2ページと3ページを切り離す
- 2ページの上から1センチ程度2回折る
- 表紙の★マークに穴を開ける
- 表紙の穴に糸を通して裏側（2ページ側）をテープで留める
- 表紙の点線に沿って下半分に折り目を付ける
- 完成

表紙は塗り絵になっています。自分だけの凧を作ろう。